

# 地球の大気環境を日常生活から改善していきましょう!

◆環境課 ☎ 587 - 6003、FAX 587 - 3834

12月は「地球温暖化防止月間」です。地球温暖化の原因である二酸化炭素などの温室効果ガスは、わたしたちの日常生活のさまざまなところから発生しており、生活を見直すことで発生量を抑制できます。

また12月は「大気汚染防止推進月間」でもあります。冬季は自動車交通量の増加、暖房器具の使用によるほか、冬特有の気象条件のため、窒素酸化物（NOx）などの大気汚染物質の濃度が高くなる季節です。

きれいな大気を守るため、皆様のご協力をお願いします。



環境シリーズ  
はじめなまきり  
Part 123

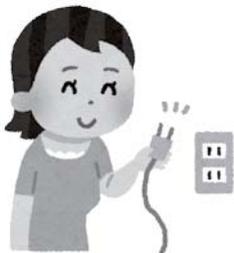
## ◎日常生活でできる取り組み

地球温暖化防止および大気汚染防止の取り組みは、共通することが多く、実践することで両方に対する効果をあげることができます。

### (1) まずは節電!

夏季にも皆さんに節電をお願いしましたが、冬季においても大気環境を守る観点からでも節電をお願いします。特に冬季の節電は夏季より二酸化炭素排出量の削減効果があるといわれています。

- 暖房の設定温度を少しでも低くしましょう（18～20℃を目安にしましょう）。
- 電気製品を使用しないときは主電源を切りましょう。長期間使用しないときはコンセントをぬきましょう。
- テレビのつけっぱなしはやめましょう。見たい番組だけ選んで見るなど工夫しましょう。



### (2) エコドライブしていますか?

ハイブリッド自動車や電気自動車も徐々に普及していますが、まだまだガソリン機関の自動車が多く、その排ガスには二酸化炭素や大気汚染物質が含まれています。

- マイカーの使用をできるだけ控え、徒歩・自転車・公共交通機関を利用しましょう。
- マイカーを使用するときは、エコドライブで運転しましょう。

エコドライブは、このコーナーでも何度か掲載しているとおり、

- ふんわりアクセルでスタート
- 加・減速が少ない運転
- 減速時は早めのエンブレブレーキ
- 自動車を5秒以上駐停車するときは、アイドリングはストップ! がコツです。

### (3) 日常生活で工夫できます

日常生活の中で少し工夫することで、大気を守る行動となります。

- 体を洗っている間にシャワーの出っぱなしをやめるなど、家庭全体でシャワー使用を減らしましょう。
- 風呂の残り湯を洗濯に使用しましょう。
- 家族みんなが同じ部屋で団らんするようにしましょう。節電効果もあります。
- 家庭からのごみの排出を減らすようにしましょう。



### (4) フロン・代替フロンも忘れないで!

広報やす9月号でもお知らせしましたが、フロンおよび代替フロンは二酸化炭素以上に温室効果をもたらす物質です。またフロンはオゾン層を破壊する物質です。

これらを含む冷蔵庫、ルームエアコンを廃棄する時は家電リサイクル法に基づき所定の手続きを、自動車は自動車リサイクル法に基づき、登録を受けた業者に引き渡し、排出を抑制しましょう。

\*地球の大気環境を守るために、できることから実践しましょう!\*

毎月第4土曜は  
廃食油回収の日

平成26年12月27日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近 回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶  
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

# 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

123

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【12月・年末年始の休館日】

月曜日、24日(水)、28日(日)～1月4日(日)

※市民は入館無料

◆テーマ展「野洲の中世遺跡」／12月2日(火)～2月1日(日)

◆パネル展「<sup>ひろせさいへい</sup>広瀬幸平の軌跡—没後100年記念—」／12月2日(火)～2月1日(日)

◆友の会歴史入門講座③／12月12日(金)午後2時～4時「滋賀の伝統的食文化」

／講師…堀越昌子さん(京都華頂大学教授)

※資料代300円、先着120人(事前申し込み不要)

◆友の会しめ縄作り教室／12月13日(土)午後2時～4時／材料代500円、先着15人※電話にて事前申し込み要(12月6日(土)午前9時から受付)

◆ドウタクくんと凧作り&凧あげ／1月12日(祝)午前10時～午後2時(雨天の場合は17日(土))／定員…小学生30人、材料代…300円※電話にて事前申し込み要(12月6日(土)午前9時から受付)

※詳しくは博物館にお問い合わせください。

## 中世の黒い器・ 近江型黒色土器

野洲市内に限ったことでは  
ありませんが、遺跡の発掘調  
査において時代的に最も調  
査例が多いのは中世の遺跡  
であるといえます。中世とは、  
一般的には平氏政権の樹立  
(1160年平安時代末期か  
ら安土桃山時代(戦国時代末  
期)までと考えるとよいかと思  
いますが、このうち野洲で主  
体を占める時期のひとつに、  
いわゆる古代からある黒色土  
器を發展させた「近江型黒色  
土器」碗の盛行する時期(鎌倉

時代全般)があげられます。  
元々黒色土器は、奈良・平安  
時代にかけての土師器の中  
も、表面を緻密にするため、器  
面は調整の際に「いねい」に磨  
いて、炭素を吸着させて黒色  
にした土器です。野洲でも平  
安時代前期の遺跡で見られま  
すが、出土量そのものは多い  
ものではありませんでした。  
この古代末の黒色土器の流れ  
を汲む土器が中世に「近江型  
黒色土器」として、日常雑器の  
主役をなし、滋賀県南部を中

心にほぼ滋賀  
県全域に認め  
られるように  
なります。  
一方、畿内  
およびその  
周辺域では  
「瓦器」と呼ば  
れる焼き物  
が主流になっ  
ています。ど  
ちらも形態  
的によく似て  
いますが、製  
法に大きな違  
いがあり、「瓦  
器」



近江型黒色土器碗  
(光相寺遺跡第5次調査・井戸跡出土)

が広く流通するようになるこ  
とで、従来の黒色土器は衰退・  
消滅します。「瓦器」は穴窯を  
用いて高温焼成(1000℃  
以上・還元焰焼成)しており、  
瓦のような質感があり、より  
硬く焼き上げられています。  
それに対して「近江型黒色土  
器」は、従来からある野焼きス  
タイルで焼成温度も低いもの  
(600～800℃前後・酸化焰焼成)  
でした。ただ、前述したように  
内面を燻すことにより炭素  
を吸着させており、水分が染  
み込むことはなかったよう  
です。窯を使用しなかったと考  
えられることから、生産に携

わった工人や生産地もよくわ  
かっておらず、詳細は未だ解  
明されていません。一部、蒲生  
郡域では「瓦器」の受容が認め  
られますが、この近江ではな  
ぜ「瓦器」でなく、従来型の黒  
色土器を發展させた「近江型  
黒色土器」であったのか、ひと  
つの謎であり、近江の中世土  
器の大きな特徴であるといえ  
ます。博物館ではこのような  
中世の遺物を紹介するテーマ  
展「野洲の中世遺跡」を12月2  
日(火)から翌年2月1日(日)まで  
開催しています。ぜひ、ご来館  
ください。

(専門員 山田謙吾)